

共生のきずなを求めて!

NPO 現代座

2013 年 2 月 1 日 発行
(通巻 456 号)

現代座レポート No. 53

- ・ NPO 現代座 2013 年度の計画について (1)
- ・ 集会室は子ども・熟年・青年の場 (2) ~ (3)
- ・ 優しく強く生きた女性たち (4) ~ (5)
- ・ 「出会いの街」準備はじまる (6)
- ・ 「蒼い空・友の呼ぶ声」千葉県・女性の集いで公演 (7)
- ・ 公演予定 新規・継続会員・寄付者のお名前 (8)

NPO 現代座ホームページ <http://www.gendaiza.org/>

特定非営利活動法人 NPO 現代座

発行責任者：木村快

〒184-0003 東京都小金井市緑町5丁目13番24号

TEL 042-381-5165 (代) FAX 042-381-6987



【3F】3F小劇場 調光設備、ピアノ、楽屋 定員40名

【2F】集会室・視聴覚室・厨房

【1F】事務所、ロビー

【地下ホール】巾12m×奥行13m×高さ5.5m 劇場施設常備

NPO 現代座 2013 年度の計画について

代表 木村 快

NPO 現代座はこの三月で十一年目を迎えます。人々がお互いに顔を合わせなくても済む便利な社会の到来で、人々が集う劇場文化はすっかり影が薄くなつてしまいました。しかし、「出会いの場としての劇場文化」は人間の心を守る活動ですから、なんとしても守り抜きたいと思っています。

現代座会館の活用について

現代座会館は一九七三年（昭和四十八年）に統一劇場（現代座の前身）稽古場として、全国各地域の支援者から資金を借入して建設された施設です。頑丈な重量鉄骨で組み立てられた建物ですから、まだまだ長期に活用できます。全国から支援され、

育てられた伝統を忘れないためにも、ここを貴重な市民の出会いの場として生かしたいのです。けれど、昨年までの会館の活用率は三〇〇程度で、赤字決算が続いていました。そこで昨年からは専従職員を置かず、使用者が協力しあつて会館が維持できる方式にあらためました。

現在、現代座ホールおよび3F小劇場は劇団・希望舞台、江戸糸あやつり人形座、NPO 現代座が使用していますが、安全確認、清掃、戸締まりはそれぞれが責任を持つ形で進めています。

3F小劇場は、「ユモレスク劇場」上演と、前記集団の稽古などに使用されていますが、できればビデオ作品の上映会やコンサートなどで、毎月一度は市民のための文化的な集いが開かれる場にしたいと考えています。

2F集会室は、現在、小金井熟年会、障がい児の学童保育「パンピーノ」、通信制大学生支援の「早稲田ラジオスクール」が使用しています。

2F視聴覚室では現代座劇場講座、SPレコード雑談会、小金井町おこしプロジェクトなどが開かれています。終会後の後半はそれぞれが責任を持つことで、なんとかやっていけるようになってきました。

上演活動

上演作品の制作についてはNPO 現代座の「出会いの街」の準備が始まっています。地下ホールでの五月上演をめざして、スタッフと俳優と一緒に作品の研究を進めています。

地元との協同作品としては、NPO・シニアSOHOと現代座による町おこしプロジェクト「川崎平右衛門」の創作活動がすでに三年間続けられています。最初は郷土資料の勉強会が中心でしたが、二〇一一年秋に児童用作品として「武蔵野台地の夜明け」を地元小学校で上演しました。五十分もかかる江戸時代の話を、子どもたちが身じろぎもせず見入っている姿に、大人たちがびっくりしていました。今年中に市民対象の本格的な音楽構成劇として上演する予定です。

地域巡演活動は、二〇〇六年以来の「遠い空の下の故郷」、昨年からは「友の呼ぶ声」の上演活動を継続しています。

2F集会室

子ども・熟年・青年の場

こんにちは、バンビノです

馬場利明



現代座さんの二階をお借りして、障がい児の放課後預かり事業をさせていただいています「バンビノ」の世話役の馬場といいます。

バンビノ (bambino) は、イタリア語で「子ども」を意味している言葉です。小鹿のバンビの語源にもなった愛らしい響きもある言葉なので、事業の名称に使っています。

バンビノは、毎週月曜日の一四時から一八時までを開所時間として、知的な障がいを持った利用者（現在5名）をお預かりしています。

バンビノの母体は、「小金井市の手をつなぐ親の会」（知的障がい者の親の会）です。手をつなぐ親の会の始まりは、昭和二十五年に千代田区の小学校（特殊学級）に通わせていた三人の母親が、お互いに手をつなぎあって子供たちを少しでも幸せにしようという願いから誕生しました。

小金井市では、昭和四十一年に設立され、その後、障がい幼児のグループ保育（ピノキオ幼児園の前身）やNPO法人に引き継いだ知的障がい者の小規模作業所などの運営を行ってきました。

小金井市親の会では、地元では放課後に障がい児を



お母さんといっしょに

ありました。

そこで、現状から一步でも踏み出そうと考えた障がい児を持つ親の有志と、小金井手をつなぐ親の会が協力して、放課後預かり事業をはじめたのが、この「バンビノ」です。

机とソファだけの殺風景な部屋ですが、子供たちには、なぜか安心できるスペースのようです。現代座さんの歴史（建物の古さ？）が、いい感じで安心感を与えているのでしょうか（笑）。また、そのおかげもあって、少々汚してもあまり怒られないという利点もあり、気兼ねなく使わせていただいております。

このように現代座さんから、週一日、決まった時間を貸していただけることが、事業を行う上での大きな力になっています。

子どもたちが、安心して帰ってこられる場所、そして、親も安心して預けられる場所「バンビノ」は、本格的な活動を初めて、まだ二年も経っていない、「よちよち歩き」の状態ですが、今後この場所で活動を続けていきたいと思っています。

預かる事業所が少ないため、新規の事業所の開設を長年要望してきましたが、なかなか実現しませんでした。また、現在の健康児を預かる学童保育所の入所には、入所基準や在籍学年の制限があり、すべての障がい児が入所できていない状況に

マルチ・メディアと取り組む熟年会

島根 茂

小金井熟年会は、元気でボケずに明るく暮らしたいという年寄りの有志が集まって相談した結果、普及し始めたパソコンの勉強会を立ち上げたのが十年以上も前でした。市報でパソコン講座の開催を知らせて参加希望者を募ったところ、申し込みが殺到しました。ほとんどが初心者で、講座は四日間だけ、参加費も安いとあって、定員一〇人に初回は抽選の騒ぎになりました。これまでの受講者は六〇〇人を超え、目的を達したとして、一昨年で一応打ち切りました。

パソコンがかなり普及した結果と、次に一般化し始めたデジタルカメラが集まり、新たに始まったのがデジタルカメラと、付随するスキャナー、プリンターの勉強会でした。



熟年会はその時期に、縁があつて現代座と結ばれました。熟年会は講座を開くための部屋探しに苦勞する難題が解消し、現代座も空いている部屋を使つてもらえて、一挙両得の名案になったわけ

です。

熟年会は水曜ごとにデジカメの勉強から、さらに発展してマルチメディア塾を開催しており、その他の日も役員による企画会議や、ネットサーフィンの勉強会などを開くため、現代座の部屋を活用し、最近は急激に普及しているタブレットを使う勉強も始めました。

会員たちは公園や観光地などでの撮影会や、自信作を持ち寄っての作品の批評と説明会に参加し、楽しいおしゃべりもあって仲良く明るく交際出来ることに生き甲斐を感じています。

早稲田ラジオスクールを開いています

高橋幸恵

わたしは学生時代に現代座の「もくれんのうた」上演活動にかかわったことがあり、ブラジルのアリアンサ移住地へも訪問しています。現在は現代座会館二階の集会室で、講座を開いています。

早稲田ラジオス

クールは早稲田大学の中に連絡所を置く、通信制大学在籍者を支援する組織です。通信制大学とは主に自宅



で学習し、年間数日通学することで、卒業できる大学です。一般の大学と全く同等の資格です。教員免許は保育士資格、社会福祉士等の国家資格を取得することもできます。

もちろん、毎日通学できる大学へ通う方が良いに決まっていますが、社会人やいろいろな事情で大学に通えない方もおられます。

通信制大学は、開かれた大学です。入試もありませんし、仕事をしながら、子育てをしながらでも学ぶことができます。「科目等履修生」という形であれば、どこか別の大学に通学しながらでも在籍することが出来ます。通学している大学では取得することが難しい、小学校の教員免許や社会福祉士等の資格も取得することが出来ます。

通信制大学の難点は、「卒業率が低い」ということです。基本は自分で教科書を読んで、レポートを書かなくてはなりません。孤立した勉強条件では、どのように学習計画を立てていけばよいか、モチベーションをどう維持していくのかなど、学力以前の課題もたくさんあるのです。こういった困難な部分を支援しているのが早稲田ラジオスクールです。

今年度、現役の学生が、小学校や高等学校の教員採用試験に合格しています。大学院に合格された方もいます。

学びの可能性はたくさんあります。高校中退でも大学に入学することができますし、大学に行っていないくても大学院に進学することができます。あきらめたらつしやる方も少なくないのではないのでしょうか。そういう方たちの少しでもお役に立てればと思っています。

ホール技術の支援協力団体・希望舞台

現代座ホールは現代座の公演、希望舞台の稽古、「江戸糸あやり人形座」など友好劇団の稽古、地元劇団の公演、映画会などで使用されています。

現代座ホールの利用者に対する技術支援は、現代座と劇団・希望舞台のスタッフが協力して行っています。

地下二階吹き抜けの現代座ホールはもともと統一劇場の稽古場として設計されたもので、舞台は一般の市民ホールでの上演を想定した空間で、吊り物類、照明・音響の設備を常備しています。また、劇場技術者育成のため、自動システムに頼らず人間の感覚で基本操作を覚える仕組みのホールですから、素人では簡単には扱えません。

事情は三階の小劇場も同じで、本来なら利用者を支援する専任技術者が必要ですが、技術者を雇用することができないので、NPO現代座と希望舞台が協力しています。



希望舞台「焼け跡から」稽古風景

劇団・希望舞台は一九八五年に統一劇場から独立した劇団です。この劇団は全国各地での公演を専門にする劇団で、現在、現代社会の有り様を問う水上勉作『釈迦内極唄』、戦災孤児の夢を振り返る由井数作『焼け跡から』の作品で全国を巡演しています。スタッフは様々なホールでのシステムを経験しています。

ユモレスク劇場 第十二回公演

『強く優しく生きた女性たち』

ハンセン病療養所に生きて

ユモレスク劇場第十二回公演として「うたと語りの会」が十一月二十一日（水）の昼・夜、二十三日（金・祝）の昼の三回、三階の小ホールで行われました。

今回は現代座が二〇〇六年以来「心の劇場」として公演を続けている『遠い空の下の故郷』を、新しいメンバーで取り組んでみようということで、『強く優しく生きた女性たち』のタイトルで、みきさちこさんと



みきさちこ 望月千寛 ピアノ：小川洋 司会：木下美智子

望月千寛さんに語ってもらいました。

この作品は二〇〇一年に木村快と木下美智子が熊本と鹿児島島のハンセン病療養所をお訪ねしたことから、その後も交流を続けている元患者さんの話を「語り」として作品化したものです。

最初に訪問したときは「国家賠償訴訟」問題についての取材が目的でしたから、ついつい非人道的な国の政策を告発することに心を奪われ、まるで第三者のような文章を書いた覚えがあります。それではただ事件を伝えただけで、その人を人間として伝えたことにはならなかったという後ろめたさを感じました。

人間なら怒りだけでなく、悲しさも嬉しさもいっぱいあったはずです。あの人たちと友だちになりたいと思いました。それからは機会ある毎に友だちとして訪ね、お互いの近況を語り合うようになりました。

あるとき気がついたことがあります。わたしの友人たちは、身が引き裂かれるほど辛かったた人生の体験を、微笑をたたえながら淡々と話すのです。辛い運命を乗り越えた人は、こんなに優しくなるものかと思いましたが、心を許した友だち同士なら、きつと心を共鳴させ、同じ体験をしている心強さがあるからでしょう。

そのとき、彼女たちの優しさと強さを、多くの人に伝えたいと思いました。それがわたしの「語り」です。わたしはまず、語り手やピアノ奏者たちに、わたしの友だちのことを紹介しました。そして「わたしがあなたたちに話したように、あなたたちはそれを自分の言葉で、あなたの友だちに紹介して欲しい」と頼みました。もっといういろいろな語り手たちにわが友だちのことを紹介してほしいと思います。

（木村快）

歌と語り「強く優しく生きた女性たち」

一、魚のように自由に

トモコは小学校五年生の時、体に斑点があらわれ、医師からハンセン病の疑いがあると告げられます。しかし母は決して療養所にはやらないと、民間療法の薬を探し歩き、あらゆる努力を傾けます。トモコは家の外に出ることを禁じられ、兄弟も別居することになります。そして四年の月日がたちました。大好きな河原を歩くことが出来ず、友達とも遊べないことはつらかったけれど、何よりつらいのは自分のために家族が差別されることでした。自分さえ居なければと思い、梅の花が咲く寒い夜、トモコは療養所へ行くことを決心します。それは十六歳の時でした。

療養所はあちこちに花が咲き乱れ、きれいなところでした。けれどそこは療養所ではなく、みんな一生懸命働かなければならない所でした。刑務所のように高い塀で囲まれ、入所者が逃げださないようにと、巡視官が監視しています。トモコはここに來たら病気が治っても、もう一生涯には帰れないのだということを知ります。

それから長い長い年月が過ぎていきました。ある時、母が死んだ夢を見ます。三ヶ月後、母が死んだとの知らせが届きます。やっぱり母は別れを告げに來たのです。自分のために差別され、苦勞をかけた母が息を引き取るときくらい、そばにいてあげたかったと泣きました。すべてが暗闇の中に消えていくようでした。

トモコは気を取り直し、せめて自分が死んだときには故郷の家が見える山に散骨してほしいと思いました。そうすれば、灰が雨に溶け、あの大好きな川辺を流れ、母と暮らしたわが家のそばを通ります。きつと心も自由になるでしょう。子どもの時からどこへも行つたことがないので、海に出たら魚のように自由に世界中を旅したいと思いました。

大変ごころ強く、すがすがしい体験でした

望月千寛（ちひろ）



私が初めて「差別」というものを意識したのは、小学生の時です。小さい頃から仲良くしていた友達がいいたのですが、近所のおじさんから「あの子は部落の子やから……」と遊ぶのを控えるよう言われたのです。

当時はその意味が分かりませんでした。が、なんの悪いこともしていない子供が、強い立場の大人に悪く言われて除け者にされるといふことに、激しい憤りを感じました。

昨年の春、夫と二人で初めて多摩全生園のハンセン病資料館を訪れ、私は何年ぶりかで差別というものの怖さを再認識しました。ハンセン病を患ったというだけで無理やり家族から引き離され、世間から隔絶された場所で一生を送らなければならなかった人々がいたことを知り、大変ショックを受けました。しかも、その患者さんたちを苦しめた差別が、国の政策によって行われたことを初めて知りました。

ハンセン病問題についてもっと知りたいと思っていた矢先、現代座の方々にお会いすることができ、差別にめげないで、逞しく生きた女性の「魚のように自由に」と「遠い空の下の故郷」を読ませて頂きました。

木村快先生が友達の患者さんのために書かれたというこの二作品に強く感動し、「ぜひ私もやってみたい」と語りの会に参加しました。

このような難しいテーマを表現できるかどうか、不安でしたが、故郷から遠く離れた療養所でお母さんのことを思いながら懸命に、そして健気に生きた女性の

ことを少しでも知ってもらいたい。そんな気持ちで本番を迎えました。

実在する女性の半生を、出演者とお客様が一緒に感じ合ひ、考えてみるという体験はめつたにないことです。貴重な体験をさせて頂き、木村先生をはじめ、共演者の方々、スタッフの方々に感謝しています。ぜひまた参加させて頂きたいです。

語りとは自分が問われること

みきさちこ



木下美智子さんがずっと好演しつづけている作品を演ずることに抵抗がありました。それを壊しはしないか……、又、それと同じように好評を得られるか、色々心配だったので、「語り」に興味があつて挑戦することにしました。

演出の木村快さんは「みきさんがやりたいように自由に語ればよい」というだけで、だめ出しをしてくれません。長年、舞台というものは演出者の意見に従うものだと考えてきたわたしにとって、大変戸惑う毎日でした。語りの中身が衝撃的なだけに、どこまで感情移入していいのか、悩みながら稽古しました。

この作品は語りの技術だけでなく、語り手の思想が問われているのだと痛感しました。

それでもアンケートに、「今回も心に響くものが多く感動しました」と書いてくださる方が多く、ホッとしています。できれば、また次の新しい語りに、ぜひ挑戦したいと思っています。

二、遠い空の下の故郷

トキは大正十一年に山深い農家に生まれました。二十三歳の時、顔や腕に湿疹が出て、保健所から療養所へ行くようにと言われます。しかし働けないわけでもなく、ずっと働いていました。ある日警官がやってきて、手錠をはめてでも連れて行くと言います。父は憤慨して警官を追い返しました。けれど、それからは町に買い物に行っても物を買ってくれず、バスに乗っても強制的に降ろされました。

トキは父に頼んで山奥に茅葺きの小屋を建てて貰い、人に見つからないようにして三年暮らしました。食事は日が暮れてから家族がひそかに運んでくれました。けれどついに見つかってしまいました。トキはさらに奥の山へ隠れ、また一年過ごしますがまた見つけられてしまい、療養所へ連れて行かれます。

療養所では病人や高齢者をおんぶして風呂へ連れていく仕事をしました。トキは療養所内で結婚しました。夫は結核の薬の副作用で耳が聞こえなくなり、白内障でも見えなくなりました。トキは夫を励ますため、一生懸命「コミュニケーション」の方法を探します。そしてついに、夫の頭部に指で文字を書いて会話をする方法をつくり出します。

ある年の大晦日の夜、目の見えない夫がヤカンをひっくり返し、火鉢の灰がトキの目の中に入ります。医者はいんな家に帰り松の内が明けるまで戻ってきませんでした。応急手当を受けられず、ついにトキも目が見えなくなってしまう。もう故郷を訪ねることも見ることもできません。

らい予防法が廃止され、大臣が謝ったと聞いたのは七十五歳の時でした。自分はもう目の見えない老人だけれど、なぜ間違ったのかをはつきりさせてほしいと思ひ、国を相手にした訴訟の原告になります。女のくせにと言われましたが、女だからこそ言わなければならぬと思ひたからです。トキは法廷で一生懸命お願ひしました。「国の責任で、国の隅々まで、偏見をなくしてください」

「出会いの街」 準備はじまる

五月上演予定の「出会いの街」は「劇場講座」参加者が、理論だけでなく実際の上演活動で共通の体験を試みたいということから企画されました。いろいろ検討した結果、二〇〇七年に初演された「小さなカフェ」を上演しようということになりました。

「小さなカフェ」は街の喫茶店に出入りする若いNPO活動家たちが、ある偶然の出来事から、街を走り回るタクシー・ドライバーや海外ボランティアに出かけようとする若い女性と関わることになるのですが、お互い他人として通り過ぎようとしていたところ、実はそれぞれが介護など共通の問題を抱えていることを知り、他人事では済まなくなる話でした。

ドラマの内容はどこの街にもありそうな話ですが、いざ上演しようとすると、いろいろ難しい問題が見えてきます。二〇〇七年にはありふれた話だったものが、二〇一三年の現在では、マスコミでも東日本大震災から人々の暮らしをどう復興させるのか、原発をどうするのかという二ニュースが繰り返され、日常会話でさえも「いじめ」や「暴力」の話が飛び交っています。



寺崎昌広



黒澤義之



中村保好



永井一誠

劇場講座では、人々の暮らしは時代とともにどのように変化し、俳優たちはどのような問題に直面したかを考える勉強会でしたから、まず、舞台となつている小さなカフェに出入りする人々の間ではどんな会話が交わされているのか、そこではどんな出会いが生まれているのかくらいは調べてみようと言つことになりました。

そこで、地元の会員のみなさんと相談することから始めました。実は地元小金井市からも市民による東北被災地見学のバス・ツアーなども企画されていますし、被災地の産物を購入して市民に販売する活動も進められています。

たまたま、会館の壊れた外壁修理に協力してくれた今井啓一さんが被災地支援活動に関わっておられ、こんな話をしてくれました。

「支援活動では教えられることが多い。被災地の人たちと友だちになってみると、あらためて、市民同士の顔の見える関係が大切なんだってことを教えられる。現代座の芝居は地味だけど、心の中にいつまでもジワジワと残るものがある。まずはここにこんなホールがあることを市民に知ってもらって、心の内側をつないでいこうよ」

タイトルは「出会いの街」とし、台本もみんなが話し合い、全面的に書き直すことになりました。



矢川千尋



西河 大



八木浩司



木の下敬志



長谷川葉月



志乃宮風子

出会いの街

会場 現代座ホール

参加費 大人 3,000 円
小中高生 1,000 円

(大震災復興支援のおみやげ付きの予定)

5月16日(木) 19:00
17日(金) 14:00 / 19:00
18日(土) 14:00 / 19:00
19日(日) 14:00
20日(月) 14:00 / 19:00
21日(火) 14:00

「蒼い空・友の呼ぶ声」 千葉県職女性のつどい

二月十六日(土) 千葉県文化会館小ホールで「千葉県職女性のつどい」が開かれ、その全体会で「友の呼ぶ声」を上演しました。

午前中は分科会で「ちくち体操」や「ゆび編み」「紙芝居とコンサート」、午後が現代座の公演でした。公演会場のロビーでは東日本大震災の復興支援バザーが行われ、色々な食べ物、小物、お花が並んで、大賑わいです。開演の前には「職場報告」があつて、看護師さんの現場の厳しい状況が具体的に話されました。

今回の公演は県職員組合の江波戸さんが声をかけてくださって実現しました。江波戸さんは地元の千葉県八日市



女性部の皆さんと

場市で、ずっと昔から何度も現代座の公演を実行委員として取り組んできた会員です。今度の芝居は規模が小さいからこの「女性のつどい」の予算でも出来るのではないかと連絡をくれたのです。開演前の挨拶で女性部長さんも「若い頃実行委員としてやったことがある」とおっしゃっていました。場内には「統一劇場」時代を知っている方もいらしたようです。

千葉県内各地の会員も駆けつけてくれました。女性部と家族の皆さんは、食い入るように舞台上に集中してくださつて、すすり泣きの声があちこちから聞こえました。

「とても良かった。また別な作品もやってほしい」と言っていただけでホツとしました。(木下美智子)

現代座の芝居を体験して

『出会いの街』には初めて出演するメンバーが四人います。現代座の芝居はこれまで観客としては見ているけれど、実際に出演するとなるとどんな心の準備が必要なのか最初の課題でした。そこで昨年と一昨年、「ユモレスク劇場」に出演した木の下敬志君と八木浩司君の経験を話して貰いました。

木の下敬志 「ユモレスク劇場」という空間が好きです。ぼくはいろんな場所でもさまざまなお芝居をしてきました。どの空間も本当に思い出深いので



すが、「ユモレスク劇場」は何と云うか暖かいのです。お客さん一人ひとりの顔がはつきり見えるし、息づかいまで感じられる。こちらのちよつとした仕事や表情も、そのまんま伝わつてしまふ舞台は、俳優にとってはほんとうは怖い舞台なのです。それなのに、なぜか不思議と心地よいのです。

今度の『出会いの街』は小劇場ではなく、現代座ホールで上演することになります。どんなお芝居になるのか楽しみです。

八木浩司 昨年、一昨年と『よみがえる夢』に出演しました。あのときは不安でした。ぼくは芝居が上手いわけではないですからね。でも、お客さんの反応がとて暖かく、すばらしい体験でした。だけど、ぼくはあのお芝居にどれだけ貢献できたんだろうと考えています。

今度もいいお芝居になると思います。だけど、ぼくはどんな役割を果たせるのか、ちよつと心配です。そこで、今度ぼくが心がけたいことは、①何事も退かないで参加すること、②緊張しないで楽しむこと、俳優が楽しくないとお客さんに楽しんでもらえませんからね。③そのためにはリラックスできるような努力することが課題です。

NPO 現代座の公演予定

NPO 現代座公演

出会いの街

5月16日(木) 19:00
 17日(金) 14:00 / 19:00
 18日(土) 14:00 / 19:00
 19日(日) 14:00
 20日(月) 14:00 / 19:00
 21日(火) 14:00

会場 現代座ホール
 参加費 大人 3000円 小中高生 1000円
 (大震災復興支援のおみやげ付きの予定)
 各回 80人の予約制です

NPO 現代座 長野県公演

蒼い空・友の呼ぶ声

6月2日(日) 昼 阿智村清内路地区 清内路小学校体育館
 3日(月) 夜 佐久市 勤労者福祉センター
 4日(火) 夜 坂城町 さかきテクノセンター(予定)

遠い空の下の故郷 ~ハンセン病療養所に生きて

5月15日 墨田区・圓通寺 大施餓鬼会法要

会員による企画公演

ジャグリング「ながめくらしつ」

企画構成 目黒陽介

あっと驚く! プロのジャグラーたちによるオムニバス公演。昨年に続いて2回目の現代座ホール公演です。

3月29日(金) 19:30
 3月30日(土) 14:00 / 18:00

会場 現代座ホール
 料金 前売 2500円 当日 3000円
 ◆問い合わせ・予約は「ながめくらしつ」
 nagameinfo@gmail.com

イケメン企画第三弾

歌とコントとトークのバラエティショー

ロマンチック・カフェで逢いましょう

構成演出 平内秀信

スペシャルゲスト 元統一劇場の天城美枝・持永貴子さん

4月6日(土) 14:00/18:30

4月7日(日) 14:00

会場 現代座3F小劇場
 一般 2,000円 中高生 1,000円(飲み物付き)

◆お申し込み・お問い合わせ 中村・090-1261-0365
 平内・090-2073-7686

【編集後記】発行が遅れてしまいました。申し訳ありません。第3種郵便物の規定があるので、お休みにするわけにもいかず、なんとか2月中の発行にこぎつけました。同時代社から出版予定の「共生の大地・アリアンサ移住地」の執筆も遅れていますが、なんとか3月中には出版できるよう努力しています。その節はよろしく願いいたします。それにしてもこの冬の寒暖の差の激しさは身体にこたえます。皆さまも健康にはお気をつけください。(木村快)

NPO現代座の会員になってください

- 年間4回発行の活動レポートをお送りします。
- 会員による企画行事をお知らせします。
- お申し出があれば、上演舞台の録画DVDをお送りします。

★年会費(現代座レポート購読料を含む)

一般会員 3,000円

協賛会員 10,000円(1口以上)

郵便振替口座番号 00110-7-703151 NPO現代座